



不着届け...あの頃のがむしゃらな自分。

梅雨も明け、蒸し暑くなってきました。思い返せば去年の今頃、私は「絶対に生き残ってやる」というサバイバル精神をたぎらせてセミナーに通っていました。セミナー生として一年過ごしてみると、勉強以外にも得るものがたくさんありました。

一、当たり前のものにありがたみを感じる心

私がセミナー生のとき、最大のストレスだったのは、寮にシャワーが付いていなかったこと、トイレが共同だった(かなりの確率で詰まっている)こと、そして洗濯機がなかったことです。お風呂は銭湯通いでしたが、一回450円は当時の私にとって大きな出費でした。なので時々、原宿のネットカフェまでシャワーを借りに行っていました。夏場は特にきつかったです。女の子として…。

大学入学を機にユニットバス付のアパートに住みはじめて、トイレとお風呂がある幸せを痛感しています。

二、成長したと思える瞬間

おそらくセミナーの卒業生が大学に入って友達を作ってみると「自分はちょっと大人だな」と思える瞬間があるでしょう。私の周りにはアルバイトしなくても生きていける人々であふれています。友達からは「そんなにバイト入れて疲れない?」と、よく言われます。私としては「セミナー生に比べたら…」と言いたいところですが、大学生にセミナー生の気持ちがわかる人はほとんどいません。

三、周りの人の大切さ

配達を始めたばかりの頃、私はその年のセミナーで一番に事故に遭いました。販売所としても本当にタイミングが悪く、急に配達員の方が一人辞めた矢先のことでした。休みのない状況のなか、代配の方が2区域を配り、他の奨学生がチラシを入れてくれるなど、みんながケガで十分に動けない私をフォローしてくれました。

2日くらいして配達を再開しましたが、痛みから高熱を出し、今度は販売所の方が夕飯を買ってきてくれるなど、あの時はその優しさに涙が出そうでした。他にも事故を知ったお客さんが大量の湿布をくれるなど、いろいろなところで助けられました。

新聞配達をして、生活費と学費を一人で払っても、自分は決してひとりで生きているのではなく、いろいろな人に支えられていることを今、頑張っているセミナー生にも忘れないでほしいと願っています。(中崎)

編集長後記

今回初めての編集作業のなかでたくさんの方にお世話になりながら、やっと完成をみることができました。本当に、ありがとうございました。2ヶ月ばかりの作業のなかで、毎日セミナーの存在について考える機会が多くありました。それ

ぞれの人生のターニングポイント(転換点)として、自分が限界まで頑張った輝かしい季節として...
...。いずれにしても大きな存在としてセミナーはあり、これからもそのような良い化学変化を未来ある若者たちに起こして欲しいと切に願っております。そしてまた、「セミナー精神」でつながった同窓生の輪がますます活発になればと、こっそりと思っています。若輩者ではありますが、どうか